

みんなで考えよう

～NO.5「おすすめの人権図書」～

【ことばのかたち】著者：おーなり由子

もしも話すことばが目に見えたら——ことばの使い方は変わるだろうか？ ベストセラー『幸福な質問』（新潮社）や「ハオハオ」「あめふりりんちゃん」などの作詞でも知られる、おーなり由子が、日々の言葉の向こう側にある風景を詩のように描く「ことばと絵の本」。この本を読んだ後、大人も子どもも、きっと言葉の使い方が変わります。



たくさん いろ つか ことば いろ
沢山の色を使って言葉の色や

おも ひょうげん つか
重みを表現して、とても見

えほん
やすい絵本になっています。

【ぼく・わたし】著者：高畠 那生

いろんなぼく、いろんなわたし いろんな気持ちで過ごしている。

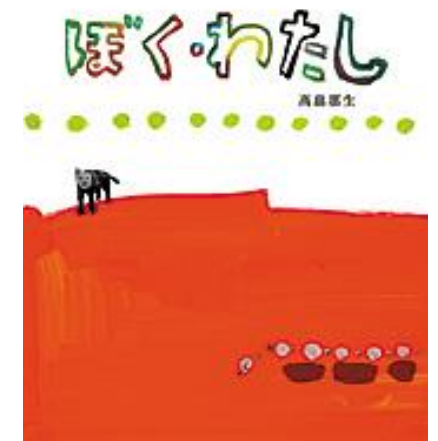
イヤなことも、うれしいことも 苦手なことも得意なことも みんなぼく、みんなわたし。

得意なこともあれば苦手なこともある。その人その人の個性が集まって大勢になる。

あたりまえのことだけど、良いところも悪いところも認め合うことの必要さを教えてくれる

ほん
本です。

えんぴつが弾んでいる。だから
シンプルなことばがこころ
にすっと入ってくる。
そんなすてきな絵本です。



…その他…

○わたしのいもうと 松谷みよ子／文

○ねことねずみ トメク・ボガツキ／作

○きみにあえてよかった エリザベス・デール／文

○こころはっぱ やすいすえこ／作

○こんどはけんかしてやる 宮本忠夫／作

○いつだってともだち エリック・バトゥ

どくしょ あき こんかい じんけんとしょ しょうかい
読書の秋ということで、今回はおススメの人権図書を紹介しました。クラブでも、読み

き聞かせをしながら子どもたちと一緒に考える時間を作りたいと思っています。ご家庭でも、かてい

こお子さんとのコミュニケーションのきっかけになればと思っていますので、さんこう
参考にしてみてください。

くださいね。

2020.9.30